資料１

第３回南第三・南第四地区新たな学校づくり基本計画検討会　議事要旨

開催日時		2026年9月28日（月）９：２８～１０：３１（実地踏査の時間は含まず）
開催場所		南第四小学校　１階会議室（ウェブ会議併用）
出席者 (敬称略)	委員	濱野委員、危委員、和田委員、山岸委員、小林委員（井能委員代理）、五十嵐委員、内田委員、清水委員、細川委員、大貫委員、◎工藤委員、大波多委員、〇貝原委員、窪田委員（◎会長　〇副会長）
	事務局	教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、指導課、学務課、教育センター
傍聴者		０名

議事内容（敬称略）

１　第２回検討会の振り返りについて

新たな学校推進課　（資料１説明）

２　サポートルーム・特別支援学級について

教育センター　（資料２説明）

委員　今の特別支援学級の通い方を教えてほしい。

30年以上前になるが、子どもに軽度の自閉症、軽度の知的障がいがあったため、南第三小学校の学区だが南第四小学校でお世話になった。必ず私の妻が学校に連れて行っていたが、南第四小学校までは通学距離が長い。問題なのは、自閉症等の子は突然走り出すなど、様々な予想のつかない行動を取る。自宅から歩いて30分で南第四小学校まで着くはずが、大体四、五十分かかっていた。その当時に比べるとかなり気象条件が悪くなっているということが気になる。大変な暑さ、ここ数日のような雨、そういった場合の障がいを持つ児童の登校、下校についてどのように考えているのかを教えてほしい。

教育センター　具体的に統合新設校でどうするかはまだ答えられないが、今現在も南第三小学校地域、南第一小学校地域から南第四小学校に徒歩や公共交通機関など、保護者の方のご協力をいただきながら登校している事例がある。原則的には通常級の児童と同様な通学がまず考えられるが、様々な個別の事情があるため、一律に決めるのではなく、周辺環境の問題や、新校舎のしつらえ等によって判断していく。大事なのはどうすれば安全に登校できるかだと思うため、個別の状況を踏まえながら、教育委員会と学校で協力し、保護者の方と相談しながら考えていきたいと思う。

委員　なるべく安全な登校ができるように、いろいろ考えていただきたい。

委員　南第四小学校の特別支援学級について、毎年、人数が増えているとのことだが、教室も徐々に広げているという話は学校から聞いている。また、保護者の方から、落ち着かない児童がいると、ほかの児童もなかなか落ち着いて勉強できないという話を聞いている。今は空いている教室を使わざるを得ない状況であるため、なかなか難

しいと思うが、新校舎では、先ほど説明にもあったクールダウンの部屋など、もう少し対応できるような設備を整えてほしい。

教育センター　市全体の傾向として、特別支援学級の学級数が増加している。町田市に限ったことではないが、特別支援学級というものが、学校をつくった当初から想定されていなかった学校も多くあるため、教室の転用工事をしながら、学校にご尽力いただいて何とか運営している現状がある。新しい学校を契機に、よりよい教室環境にとは思っているため、いただいた意見もしっかり踏まえて検討を進めていく。

委員　南第三小学校にひとみときこえという教室があることを知らなかったため、とても参考になった。南第三小学校と南第四小学校が特別支援教育に力を入れている学校で、いろいろな地区から児童が来ているというのは、非常にありがたいことだと思う。また、多様性を認め合えるような学校であるというのが南第四小学校のとてもいいところだと思っているため、そこをぜひ力を入れていただきたいと思う。

サポートルームについては、先生と相談して、行くことになった保護者の方から話を聞くことも多い。

今、サポートルームは、南第三小学校、南第四小学校でどれぐらいの人数の児童が行っているのか。また、新しい学校ができた際にどれくらいの規模で受入れを考えているのか教えてほしい。クールダウンの部屋の話もあったが、おそらく、少し難しさを抱えながら通常級に頑張って通っている児童が多いため、受入れを多くしていただけるといいと思う。

教育センター　サポートルームの今の利用者について、５月１日時点で南第三小学校が６学年合わせて38名、南第四小学校が６学年合わせて43名。

サポートルームも特別支援学級も同様だが、定員があるものではない。一人一人に必要な支援が何かを保護者の方と学校で話し合って申請いただいている。サポートルームが必要な児童であればご検討いただき、児童にとってそれがよりよい支援になるということであれば利用していただきたい。対象はあるが、対象に該当する児童であれば数を理由に断ることはない。

４月の年度が替わる時点の利用者数により、支援級であれば学級数が決まり、先生の数が決まる。サポートルームも同様に４月時点の利用者数で先生の数が決まる。そのため、年度途中に人数が増えた場合でも限られた先生の中で運営しなければならなくなるが、児童に必要であれば使える支援となっている。

新校舎でも同様に、サポートルームであれば利用する児童の人数を見て、拠点校の先生が南第三小学校、南第四学校の統合新設校に何日行くかを決め、どの教室を使うかによって同時に何人利用できるかを決めている。サポートルームの存在を前提に新校舎の設計や教室配置も考えていきたいと思っている。

３　新たな学校づくり意見募集結果について

新たな学校推進課　（資料３－１、３－２説明）

委員　資料３－１の５ページ目の回答抜粋の「通学」で酷暑の中の通学とある。町田市に

も健康関連の方々が多くいると思うが、児童が酷暑の中を通学する、雨の中を通学するということに対して、どのような方策を取ったらいいのか、どのように健康管理を考えているのか教えてほしい。

具体的に言えば９月１日のような、小学校、中学校が始業式だけで終わりになる場合に、一番かんかん照りの時間に幼い子どもたちが帰らなければいけないという事態が考えられる。また、土砂降りの中を帰らなければならない時のことなど、市の健康関連の方々の意見も入れて、後日でも構わないが具体的にお返事をいただきたい。

学校にも保健の先生がいらっしゃるため、そういったプロの意見も参考にして、いろいろ計画をつくっていただきたい。

委員　地域の特色について、最近、各地で水害が起きているが、当地域は住みやすさに影響を及ぼすような自然災害のリスクが比較的低い土地柄だと思う。また、閑静な住宅地に公園などが点在し、多少なりとも住環境が維持されているのではないかと思う。

次に、新しい学校に通う子どもがどのような子どもに育ってほしいかについて、まず、思いやりのある子、相手の気持ちを考え、優しい心を持てるようになってほしい。もう一つは誰にでも挨拶ができる子どもになってほしい。挨拶は人間関係を築く上で欠かせないものだと考えている。

委員　新しい学校に通う子どもはどのような子どもに育ってほしいかについて、４ページの（4）に回答抜粋とあるが、まさにこのとおりだと思う。自主性、他者理解、思いやりのある子ども、明るく元気な子ども、挨拶ができる子、明るく挨拶して元気に育ってほしい。

委員　新しい学校に通う子どもたちについては、それぞれがみんなを認め合える、いろいろな標準的なこともそうだが、違った面でも認め合える子どもたちになってほしい。また、挨拶ができることは基本中の基本であるため、これは日々これからもずっと永遠に努力する事項だと思っている。さらに、元気な子ども。障がいがある子もみんな一緒だが、精神的にも、自分では元気だと思っているが、元気そうに見えないこともある。そういったことも含めて、人を認め合える子どもになってほしいと思う。

委員　南第三小学校の児童は運動神経がいいという勝手なイメージがある。また、南第四小学校の児童は元気な子が多いというイメージがある。

金森三丁目に住んでいるが、戸建ての住宅が増えたと、昨日、自治会の会議でも言っていた。そのため、若い世代が結構入ってきているという地域の特色があると思う。

どのような子どもに育ってほしいかについては、多様性を認め合えるような子どもたちに育ってほしいと思う。今、私の子どもは高学年になり、宿題がとても多くてヒーヒー言っているが、勉強はそこそこに、イベントで団結し、協力し合える、子どもたちの交流が密になるような学校であってほしいと思う。

委員　　地域の特色は、アンケートの結果にも書いてあったと思うが、子どもたちに声をかけてくれる方たちがたくさんいるということはやはり大きいと思う。私の子どもたちは金森保育園から南第四小学校に通い、南中学校に通っている。保育園の先生方も地域に住んでいる方がいらっしゃる。会うと声をかけてくれる大人がいるという環境は、おそらく今の世の中、なかなか少なくなっているのではないかと思うと、続けていけるように私たち大人も努力していきたいと思う。私も知っている子どもを見かけたら声をかけるようにしているが、顔を合わせたときにちょっとした挨拶ができるという環境を保っていきたいと思う。

子どもにどんなふうに育ってほしいかについては、他の委員の発言やアンケートにも出ているとおりだが、小学校１年生から６年生までは子どもの成長が大きく見られる６年間であり、大きくなってくるとやや反抗的な児童がいたり、先生方は大変だと思う。南第四小学校を見ていて、非常に伸び伸びと子どもたちを育ててくれていると、私の子どもたちも含めて実感しているため、子どもたちが子どもらしく伸び伸びと成長してほしいと思う。

委員　　細かい具体的な姿は回答抜粋に書かれているとおりだと思っている。私はやはり今の本校の教育目標である賢く、優しく、元気よく、これに集約されるのではないかと考えている。

委員　　どのような子どもに育ってほしいかについては、元気で心と体も健康に育ってほしいと思う。小学校は人の土台になる時期であり、これから中学生、高校生になるため、心と体の健康が一番大事だと思う。

委員　　子どもが南第三小学校に通っており、挨拶運動がある。挨拶というのは基本のことだが、それを大事にしっかりできるというのはすてきなことだと思うため、新しい学校にも受け継いでいってほしいと思う。新しい学校に通う子どもは、自分の頭で考えて行動できる子どもになってほしいと思う。

委員　　私は、ボランティアコーディネーターをやっているため、そのあたりから意見を言う。回答抜粋の中に、教員がやらなくてもよい仕事を委託してほしいという意見があった。私は、地域の方にボランティアをお願いする役目を持っているが、若い方は働いているため、お願いする方は高齢者が多く、足が痛かったり、腰が痛かったりしてなかなか持続できない年齢になってきている。子どもたちが花壇に花を植えたりするが、その草取りなど、伸びるまで放っておかず、気が利いた子がいたらやってほしい、そういう教育があればと思っている。本当に高齢者は膝が痛くてかがめないこともあるため、そのあたりを考慮していただきたいと思う。

委員　　全体的に南第三小学校、南第四小学校の教育は大変すばらしいと思っている。私も今年で70歳だが、南第三小学校の卒業生であり、南中学校の卒業生でもある。子どもたちと接触する機会が、町内会のお祭りや、青少年健全育成南第三地区委員会で朝の通学の見守りなどであり、卒業式、入学式にも参加させていただいた。本当に子どもたちが明るく、元気よく、もちろん保護者の方々の毎日のご指導や、先生方、学校の指導がすばらしいからだと思っている。これに関してはそのまま続けていた

だき、統合されてもそのような形を保ってほしい。

また、30年以上も前だが、私の自閉症の子どもは本当に友達にかわいがってもらった。南第四小学校、町田第一中学校でお世話になったが、とてもよくお世話をしてくれ、現在、何とか無事に仕事もできるようになっている。そういったものがいかにその先の子どもたちの成長、安定した生活に結びついていくかが感じられるため、このまま明るく元気でということを続け、さらにいい学校にしていってほしい。

委員　　視点が違うかもしれないが、私は、父の背中を見て育ったが、母のほうからはいろいろ言われた。よく言われていたのが「なせば成る、なさねば成らぬ、何事も、成らぬは人のなさぬなりけり」や、「１度した失敗はするな」、「いいことは何でもして悪いことはするな」など、そういった昭和時代というような、お年寄りから学べる子どもになってほしいと思う。

また、南第三小学校のあたりを町内会でパトロールしているが、巡回中に子どもに手を振ると、必ず手を振り返してくれる。南第四小学校もそうだと思うが、とても明るく、好感度が良く、いいと思っている。

一般的な人に優しくや自分の人生は自分で選ぶなどということはいろいろなところで出ているが、孔子が自分の弟子にするには１つだけ、素直な子どもは全て弟子にするということを言っていた。素直な子どもになってほしいと思う。

委員　　先ほどから子どもたちに声をかけるということを言ってくださっている方がいるが、まさにそれだと思う。この地域は、学校だけではなく地域の方と一緒に子どもを育てているということをとても感じる地域だと思う。

どのような子どもに育ってほしいかについては、先ほどから出ている自主性、他者理解というのもあるが、私は明るく素直で子どもらしいというのもこの地域の特徴ではないかと思うため、そのまま、統合しても子どもらしい子どもたちでいてほしいと思っている。

委員　　どのような子どもというのは、やはり人間性、やらなければいけないことをきちんとしっかりできる、それが社会にしっかりつながり、やれるような子どもを育成していこうと思っている。本校では、挨拶や、靴箱の靴をしっかりかかとをそろえて並べる、体育着はたたむなど、そういった人間の基本みたいなところも含めて指導している。

また、子どもの失敗というのは学校で学ぶことが多いため、失敗を責めるのではなく、失敗したことから次に生かし、子どもがいろんな経験をしてチャレンジをしていくことを念頭に置くよう教職員には伝えている。そのため、世の中に出ていくうえで大切なこと、前向きに取り組んでいく気持ちをしっかり持てるように、と学校で指導している。

地域については、本当に本校は地域の方にたくさんご協力いただいている。特色としても、放課後の学習教室で、退職された元先生など、いろいろな方をＶＣの方に探していただき、少し勉強が苦手な子を呼んで、塾のようなシステムをつくっている。また、学校のヒマワリなどの花壇も地域の方にご協力をいただいたり、朝の挨拶

や見守りも有志の方に立っていただいたりしている。保護者の方には運動会をボランティアで手伝っていただいており、地域一体となって皆さんの力を受けて学校運営をさせていただいている。

委員　　地域について、他の委員が言ったように、子どもを大切にする地域だと思っている。私も赴任して５年、６年になるが、地域の方にはいろいろお世話になっており、子どもの面倒をよく見てもらっていると感じている。

どんな子どもに育ってもらいたいかについては、やはり小学校時代はたくましく生きるための基盤をつくる時代だと思うため、知識だけではなく、困難を乗り越えられる精神力や知恵、向上心、挑戦心を培っていきたいと思っている。本校では、教育目標のほかに目指す児童像があり、その中に、粘り強く最後までやり抜く姿、向上心を持って挑戦する姿を掲げている。そうした姿を通しながら、たくましく生きるための基盤をつくってほしいと思っている。

会長　　南第三小学校も南第四小学校も、地域の方にいろいろお世話になりながら一緒に子どもを育てているという雰囲気があると思う。どんな子どもに育ってほしいかについては、思いやりのある子や、多様性、お互いを認め合える子ども、そして明るく心も体も元気な子ども、自主性を持った子どもという意見が出たかと思う。

４　新たな学校の通学について

学務課　　（資料４－１、４－２、４－３説明）

５　次回開催予定

新たな学校推進課　第４回基本計画検討会

2026年10月19日（月）　南第四小学校会議室

６　通学路実地踏査

（現地解散・閉会）